

# 若年者のキャリア教育、マッチング、キャリア・アップ に係る実態調査結果概要

～内閣府委託調査結果から～

## I. 調査概要

## II. 若年者のキャリアパスとキャリア教育、マッチング手段、就業満足度との関係について

1. 雇用形態の変化と非正規社員の意識
2. キャリア教育とインターンシップ
3. 就職活動と就業満足度

## III. 若年者におけるひきこもり、不登校経験者と就労等との関係について

1. ひきこもり、不登校経験者の現状
2. 関係支援機関等の認知状況
3. 中間就労と就労

平成25年4月6日(土)

内閣官房・内閣府

# I. 調査概要

調査名: 若年者のキャリア教育、マッチング、キャリア・アップに係る実態調査

調査目的: 「正規のまま」、「望まず非正規のまま」を中心とした若年者のキャリアパスと、キャリア教育、  
 マッチング手段、就業満足度との関係・傾向の把握を試みる。  
 ・ひきこもり、不登校経験者と就労等との関係・傾向の把握を試みる。

調査期間: 平成25年1月28日～30日

調査方法: インターネット調査 (Webアンケート調査)

調査対象: 学生及び専業主婦(夫)を除く18～30歳までの民間就業者及び若年無業者

(\*) 就業構造基本調査(2007年)、中小企業白書(平成24年度版)付属統計資料2表をもとに、正規雇用・非正規雇用別、男女別、地方別、年齢別の割合を算出し、その割合に沿う形で調査対象者を抽出し、アンケートを実施  
 (詳細は下記算出方法参照)。

サンプル数: 3148(うち、就業者3027、無業者121)

	サンプル数	割合
大企業	1,038	34.3%
中小企業	1,989	65.7%
合計	3,027	100.0%

	サンプル数	割合
就業者	3,027	96.2%
若年無業者	121	3.8%
合計	3,148	100.0%

	大企業		中小企業		合計	割合
	サンプル数	(大企業) 割合	サンプル数	(中小企業) 割合		
正規雇用	670	64.5%	1,293	65.0%	1,963	64.8%
非正規雇用	368	35.5%	696	35.0%	1,064	35.2%
合計	1,038	100.0%	1,989	100.0%	3,027	100.0%

算出方法

- ① 都道府県別・男女別・年齢別就業者数を就業構造基本調査(2007年)より引用
- ② 無業者数(未婚かつ学業及び家事に従事しないもの)を就業構造基本調査(2007年)より引用
- ③ 都道府県別・大企業及び中小企業従事者比率を平成24年度版中小企業白書 付属統計表第2表より引用
- ④ 男女別・地域別・正規雇用・非正規雇用者比率を就業構造基本調査(2007年)より引用。
- ⑤ ①、②の合計値を100%とし就業者・若年無業者比率を算出。

## Ⅱ. 若年者のキャリアパスとキャリア教育、マッチング手段、 就業満足度との関係について

---

# 1. 雇用形態の変化と非正規社員の意識

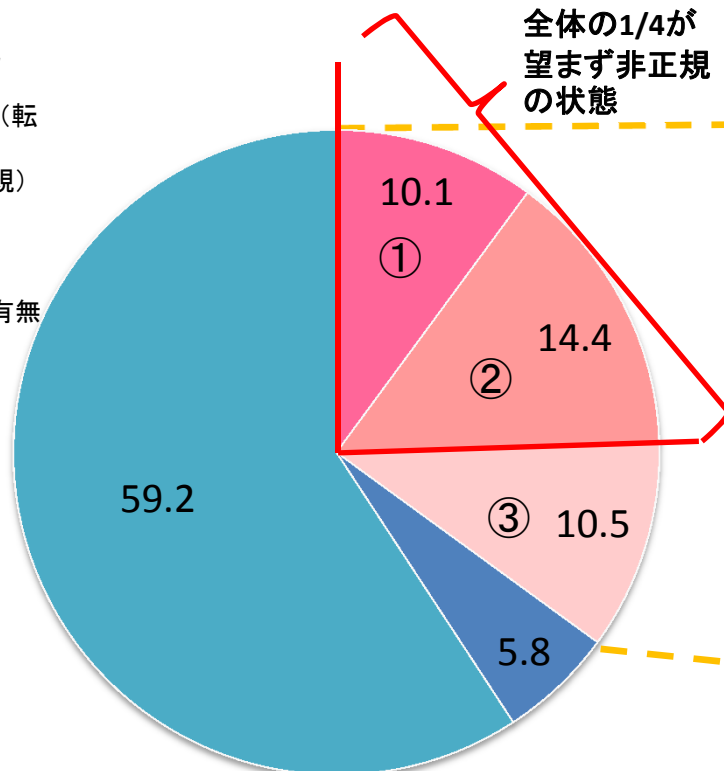
- 雇用形態の変化をみると「正規→望まず非正規」、「望まず非正規のまま」が1/4程度を占め、非正規のうち7割が望まず非正規の状態にある。他方、非正規から正規に移行した割合は5.8%にとどまっている。
- 2～3年以内に正社員の職を見つけたいとした者の割合は約半数。非正規社員のままで働き続けたいとした者の割合は12.5%にとどまっている。

## (1) 雇用形態の変化

非正規(①～③)のうち7割が望まず非正規(①+②)

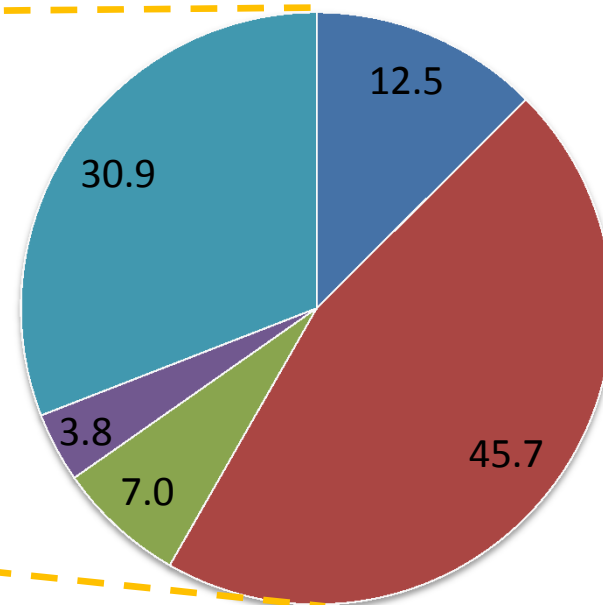
- ①正規→望まず非正規
- ②望まず非正規のまま(転職の有無は問わない)
- ③その他(望んで非正規)
- ④非正規→正規
- ⑤正規のまま(転職の有無は問わない)

N=2847



## (2) 今後も非正規社員で働き続けるかどうか

2～3年以内に正社員になりたい者が半数



- ずっとこのままで良い
- 2～3年以内に正社員の職を見つけたい
- 4～5年以内に正社員の職を見つけたい
- 10年以内に正社員の職を見つけたい
- 分からない

N=997

注1) 現在の業種が医療・福祉系の者(N=147)、無業者(N=121)、就職した企業の業種として公務を選択した者(いわゆるみなし公務員)(N=33)は除いている(以下同様)。

注2) 「⑤その他」には、「正規→望んで非正規」、「望んで非正規のまま(転職含む)」を含んでいる。

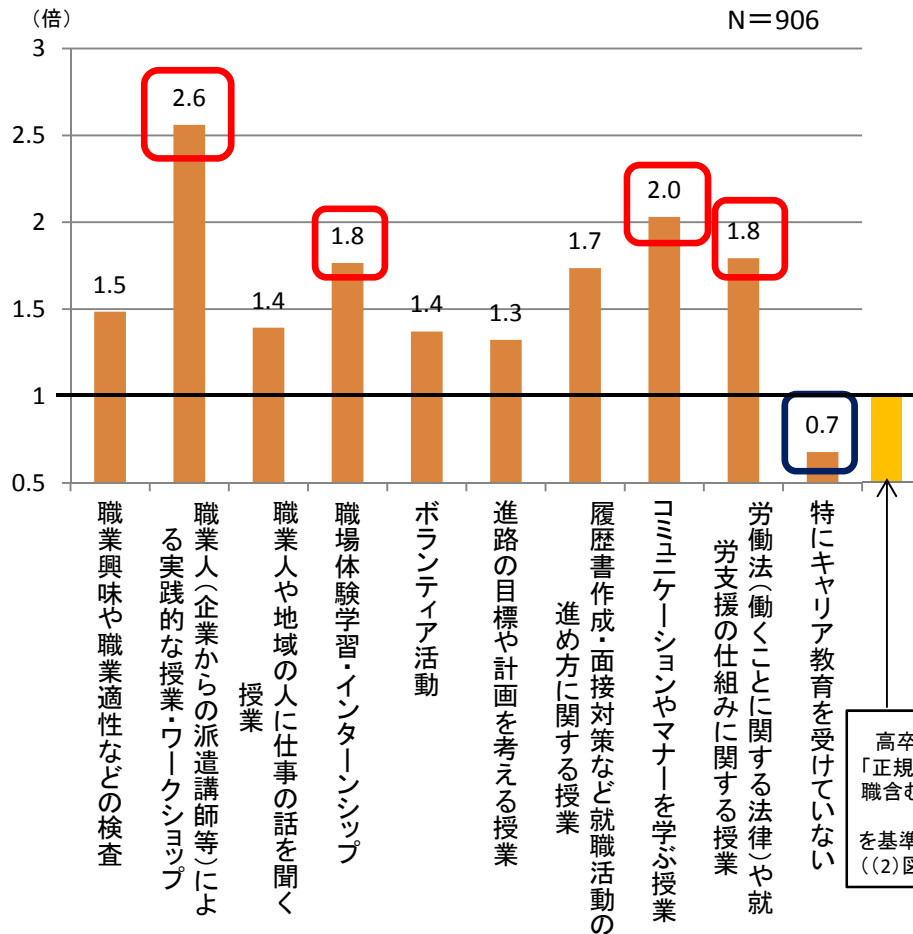
注3) 学卒初職と現在職の雇用形態を比較。現在の職業として契約社員、アルバイト・パート・派遣を選択した者に対し、当該職業を就職先に選ぶ際に非正規社員を希望していなかったと回答した者を「望まず非正規」と整理。

注) 現在の職業として契約社員、アルバイト・パート・派遣を選択した者への設問に対する回答

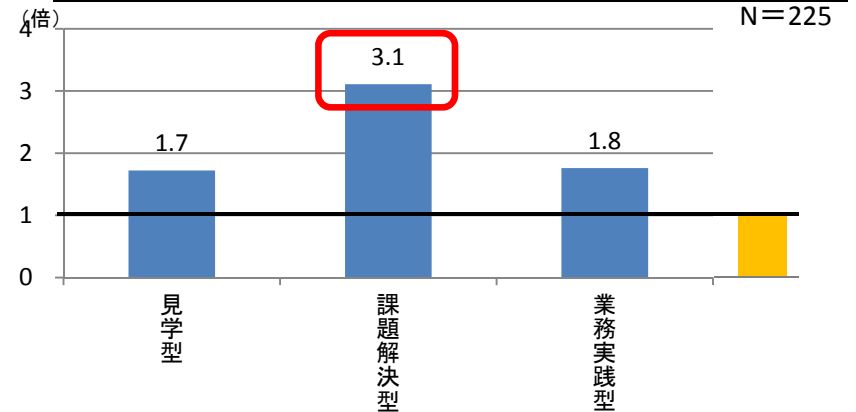
## 2. キャリア教育とインターンシップ（高卒）～「正規のまま」パスと「望まず非正規のまま」パスとの比較

- 高卒者について、「正規のまま」は「望まず非正規のまま」よりも、実践的な授業・ワークショップに参加したり、インターンシップ等に参加している割合が高い。特にインターンシップの種類では、すべての類型で「正規のまま」との差が大きく、中でも課題解決型（3.1倍）に多く参加している傾向がある。
- 職業体験・インターンシップに最初に参加する時期は、高校2年生が最も多く、約6割。

(1) 高校等在学中に受けたキャリア教育

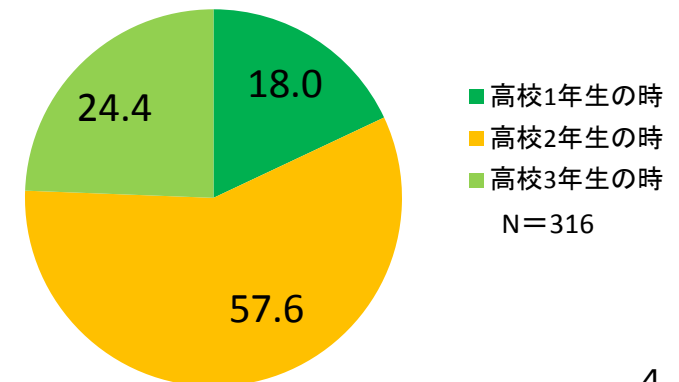


(2) 高校等在学中に受けたインターンシップの種類



- 注1) 課題解決型インターンシップ: 新規商品の企画提案等大学・学生・企業双方のニーズに沿った課題を設定しその解決を目標とするプログラムのこと。  
 注2) 業務実践型インターンシップ: インターンシップ先の社員が行う業務と同じ業務を行うプログラムのこと。  
 注3) 高校等在学中に最初に参加したインターンシップ

(3) 高等学校在学中に最初に参加した職業体験・インターンシップの時期



注1) 図(1)、(2)については、高卒者全体の「正規のまま(転職含む)」の数(①. N=678) / 「望まず非正規のまま(転職含む)」の数(②. N=228)を1としたときの各回答項目における①/②との比率を記載。

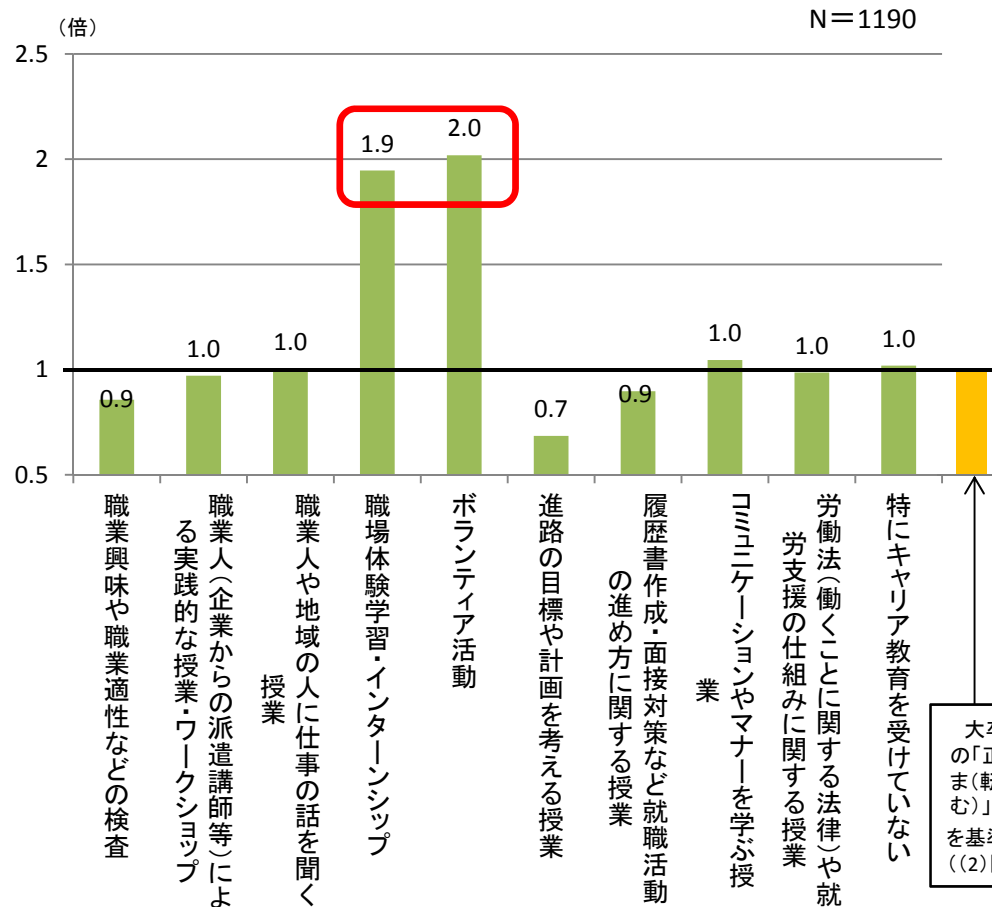
注2) 高等学校、高等専修学校を卒業した者を「高卒」としている(以下同様)。高校等には高等学校、高等専修学校が含まれる(以下同様)。

高卒者全体の「正規のまま(転職含む)」の数  
 高卒者全体の「望まず非正規のまま(転職含む)」の数  
 を基準(=1)として比較  
 ((2)図も同様)

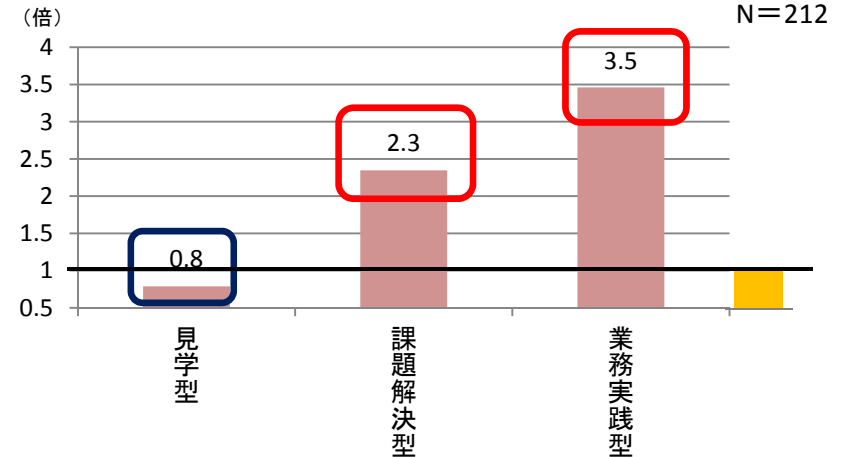
## 2. キャリア教育とインターンシップ（大卒）～「正規のまま」パスと「望まず非正規のまま」パスとの比較

- 大卒者について、「正規のまま」は「望まず非正規のまま」よりも、インターンシップやボランティア活動、労働法等に関する授業に参加している割合が高い。特にインターンシップの種類では、業務実践型(3.5倍)、課題解決型(2.3倍)に多く参加している割合が高い。
- 職業体験学習・インターンシップに最初に参加する時期は、約7割が大学3年生となっている。また、大卒者の中で職業体験学習・インターンシップに参加した者の割合は約2割にとどまる。

(1) 大学等在学中に受けたキャリア教育



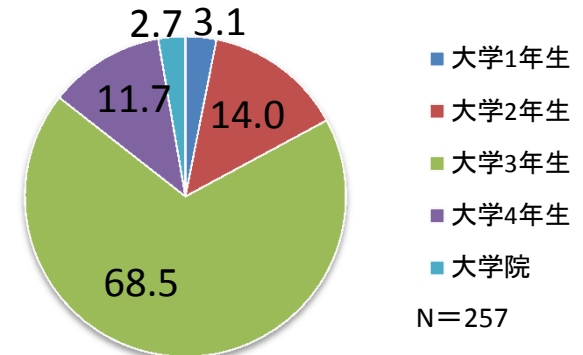
(2) 大学等在学中に受けたインターンシップの種類



注) 大学等在学中に最初に参加したインターンシップ

(3) 大学等在学中に最初に参加した職業体験学習・インターンシップの時期

大卒者全体の職場体験学習・インターンシップへの参加率: 18%



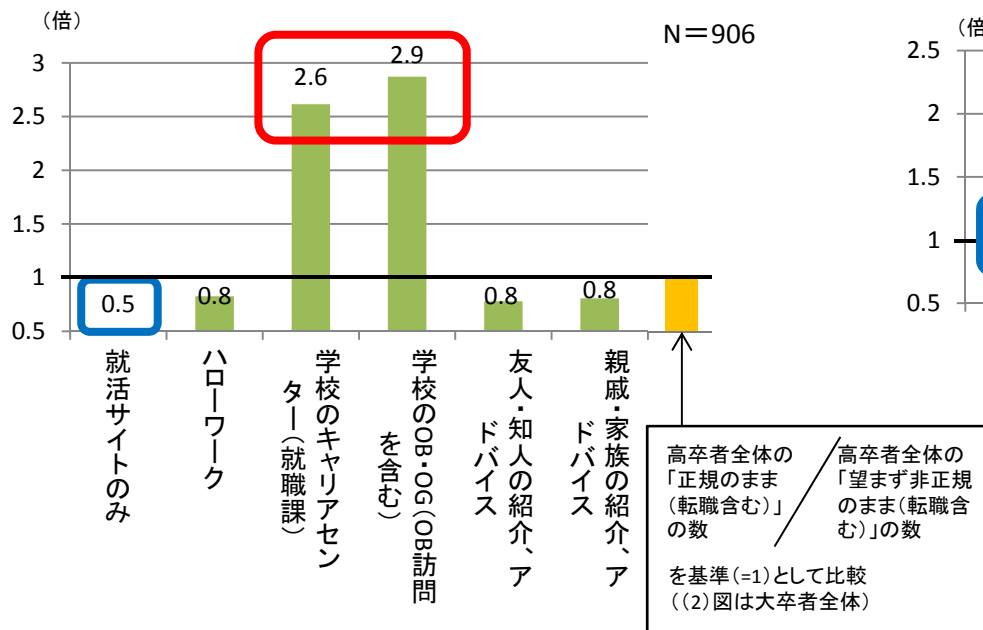
注1) 図(1)、(2)については、大卒者全体の「正規のまま(転職含む)」の数(①。N=1008) / 「望まず非正規のまま(転職含む)」の数(②。N=182)を1としたときの各回答項目における①/②との比率を記載。

注2) 大学、短期大学、大学院を卒業した者を「大卒」としている。大学等には大学、短期大学、大学院が含まれる。

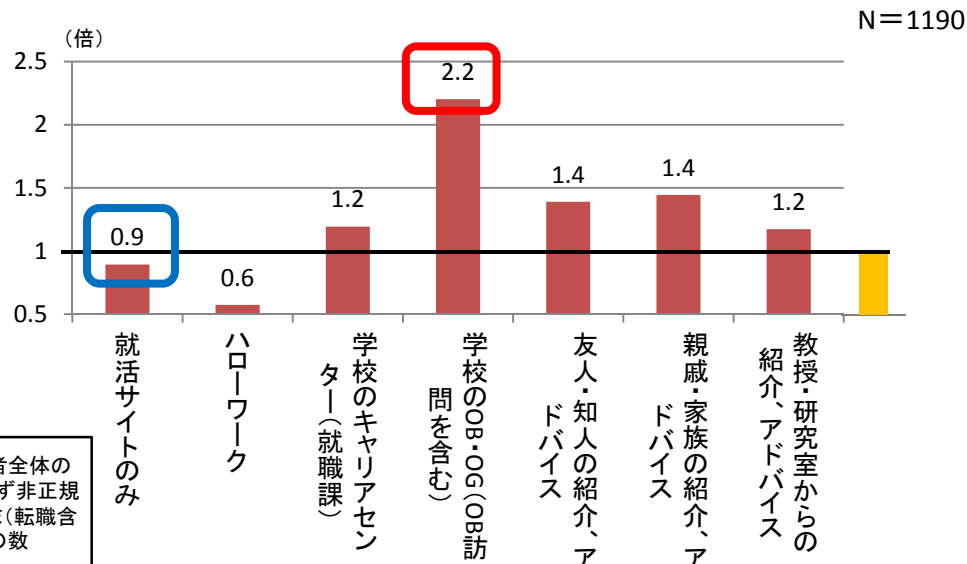
### 3. 就職活動と就業満足度～「正規のまま」パスと「望まず非正規のまま」パスとの比較等

- 大卒・高卒者ともに就職活動時のマッチング手段をみると、「正規のまま」は「望まず非正規のまま」よりも学校のOB・OGを活用している割合が高い(高卒:2.9倍、大卒:2.2倍)。ただし、大卒者のキャリアセンターの活用状況に差はほぼない。高卒者では「望まず非正規のまま」の方が就活サイトのみを利用して就職活動を行っている割合が高い。
- 就職活動時期に就職先企業への理解が深まっている場合、就業満足度が高い傾向がある。

(1) 就職活動時に利用したマッチング手段(高卒)

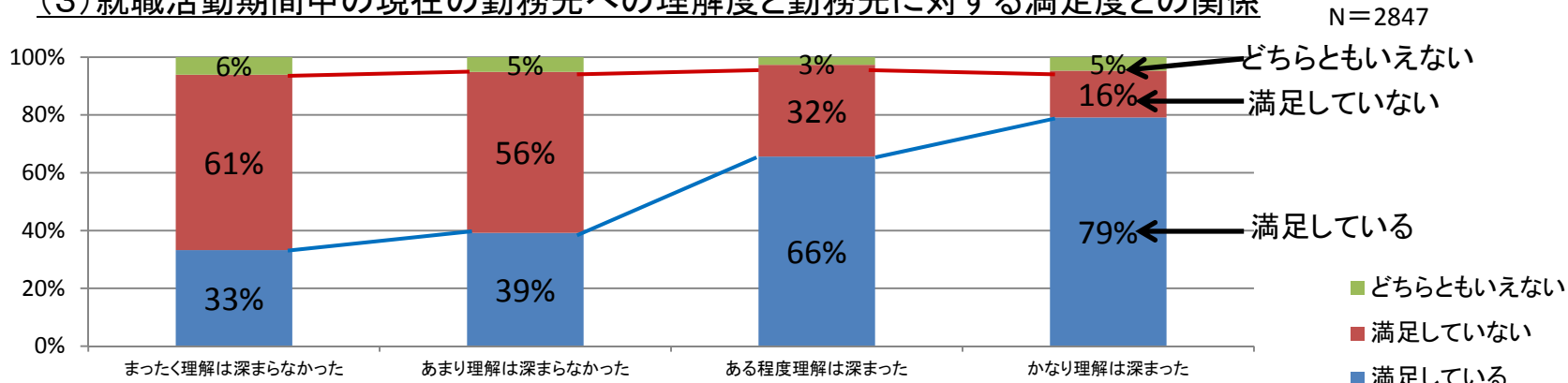


(2) 就職活動時に利用したマッチング手段(大卒)



注1) 図(1)、(2)については、「正規のまま(転職含む)」の数(①)「望まず非正規のまま(転職含む)」の数(②)を1としたときの各回答項目における①/②との比率を記載。  
 注2) 複数回答方式。ただし、就活サイトについてはそれのみを利用した数値を記載。

(3) 就職活動期間中の現在の勤務先への理解度と勤務先に対する満足度との関係



### **Ⅲ. 若年者におけるひきこもり、不登校経験者と就労等 との関係について**

---



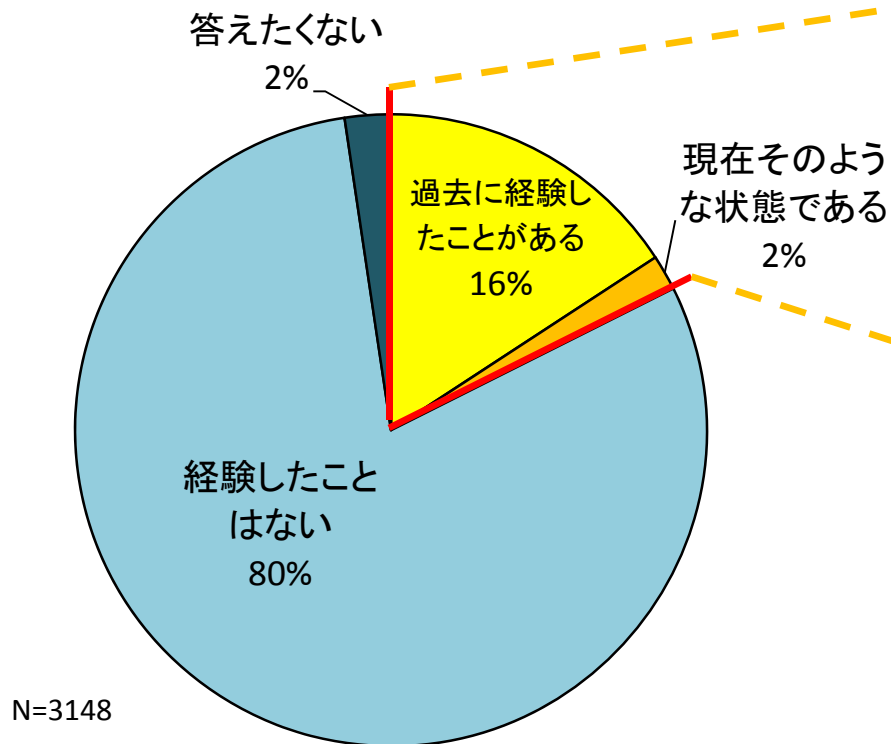
# 1. ひきこもり、不登校経験者の現状

- ひきこもり、不登校経験者<sup>(※1)</sup>は全体の2割にのぼる。
- 若者の自立支援を行う地域若者サポートステーションの認知状況については、その存在のみを知っている者を含めれば4割となっているものの、内容や役割を「知っている」<sup>(※2)</sup>のは2割にとどまっており、より一層の周知・推進が必要。

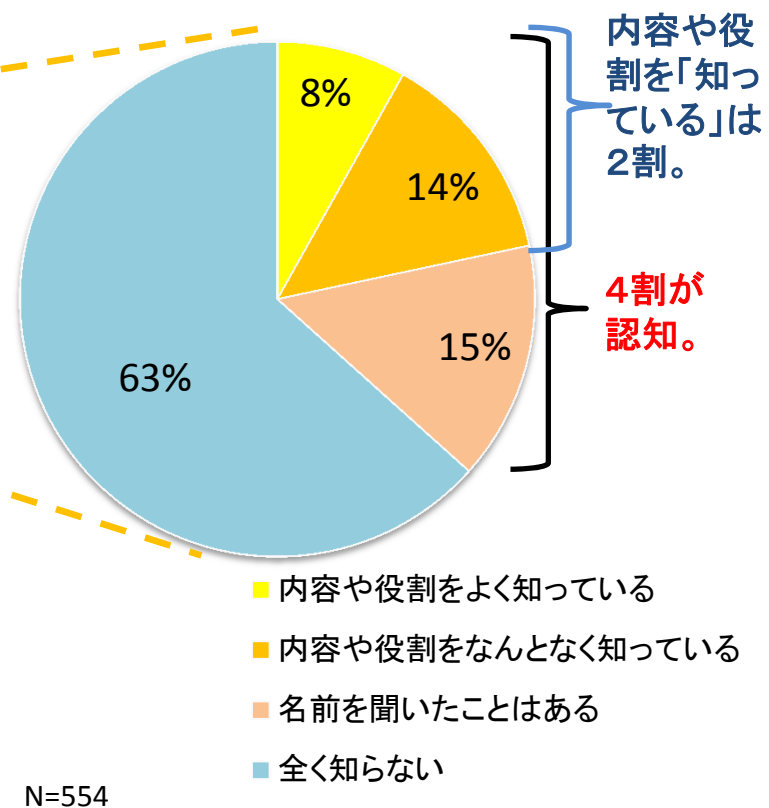
(※1) 現在そのような状態にある者を含む。(以下同様)  
 (※2) 内容や役割を「よく知っている」、「なんとなく知っている」と回答した者の合計を「知っている」としている。(以下同様)

## (1) ひきこもり、不登校経験の有無

ひきこもり、不登校経験者の割合は1/5



## (2) 地域若者サポートステーションの認知状況



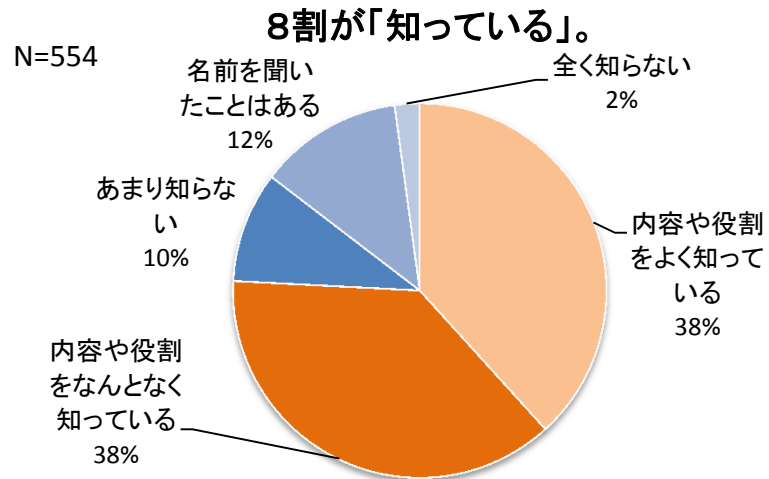
注) 学生及び専業主婦(夫)を除く18~30歳までの民間就業者及び若年無業者に対する質問(調査対象の詳細は本資料P1参照)。

注) 地域若者サポートステーション: 働くことについてさまざまな悩みを抱えている15歳~39歳位までの若年者が就労に向かえるよう、多様な支援サービスでサポートする機関。

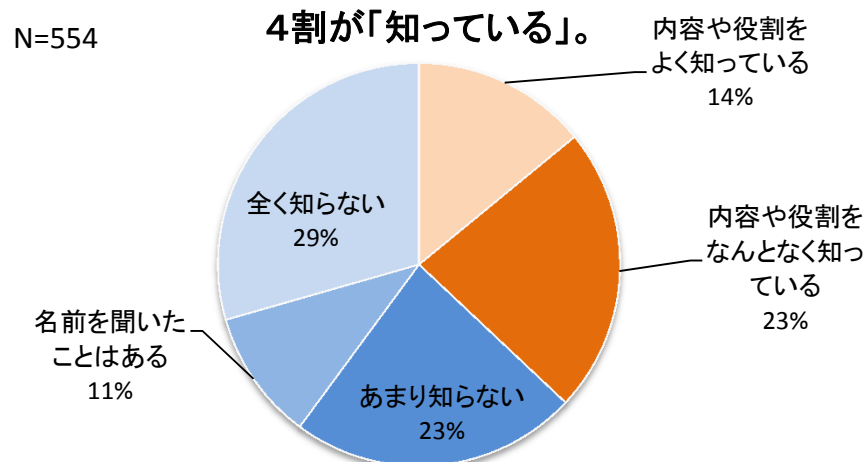
## 2. 関係支援機関等の認知状況

- 関係支援機関等の認知状況についてみると、内容や役割を「知っている」は、ハローワークでは8割と高くなっている。
- 他方、ジョブカフェは4割、就職担当教員やキャリアセンターは3割、ジョブ・カード制度は2割にとどまっており、一層の周知・推進が必要。

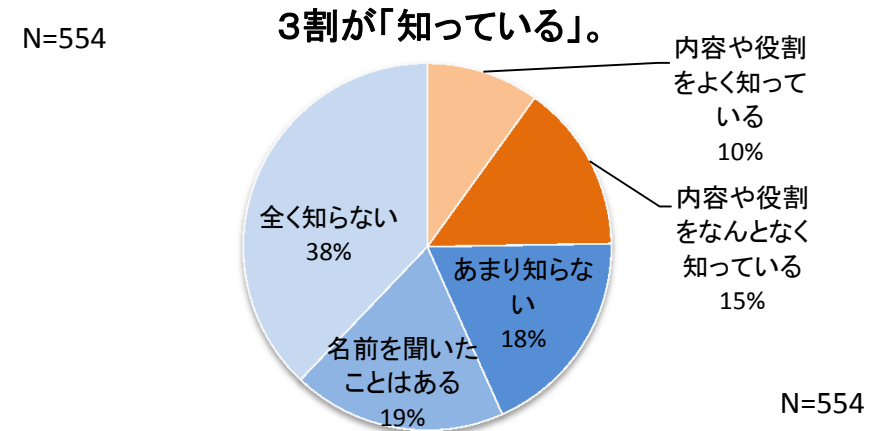
(1) ハローワークの認知状況



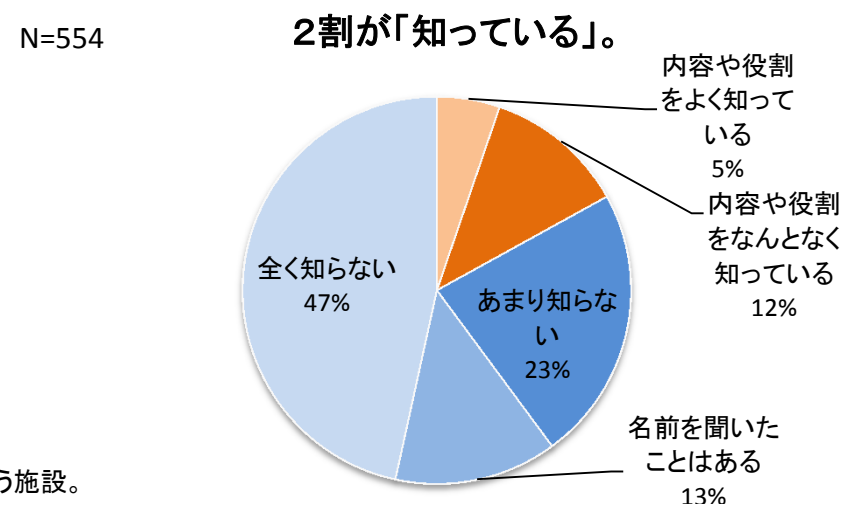
(2) ジョブカフェの認知状況



(3) 就職担当教員や大学キャリアセンターの認知状況



(4) ジョブ・カード制度の認知状況



注) ジョブカフェ: 都道府県が主体的に設置する、若者の就職支援をワンストップで行う施設。

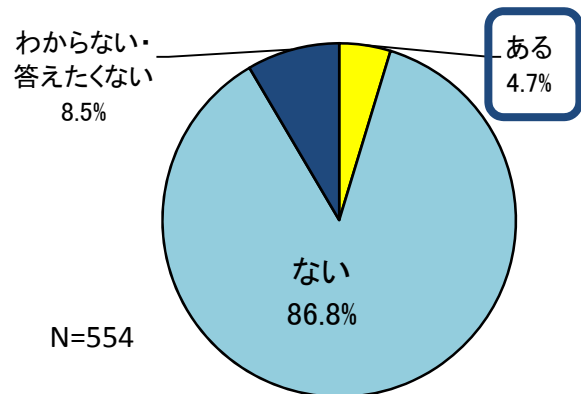
### 3. 中間就労と就労

- 中間就労経験者(\*)はひきこもり、不登校経験者の5%と低い。中間就労は、特に「社会的マナー・常識」の習得、「職業観の形成」に役立っている。
- 中間就労経験者には無業者はおらず、全て就労につながっており、正規雇用比率も1割高い。
- また、就労に結びつく支援形態としては、学校によるカウンセリングはもちろんのこと、地域若者サポートステーションによる支援も一定の効果을あげている。

(\*) 中間就労を現在行っているもしくは行った経験がある者(以下同様)。

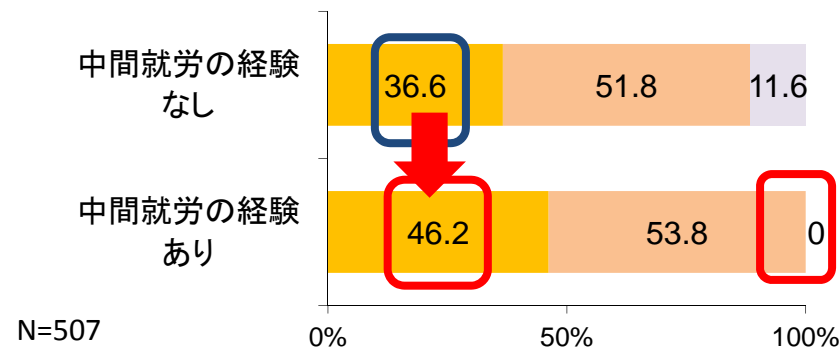
#### (1) 中間就労の経験の有無

中間就労経験者の割合は4.7%と低い。



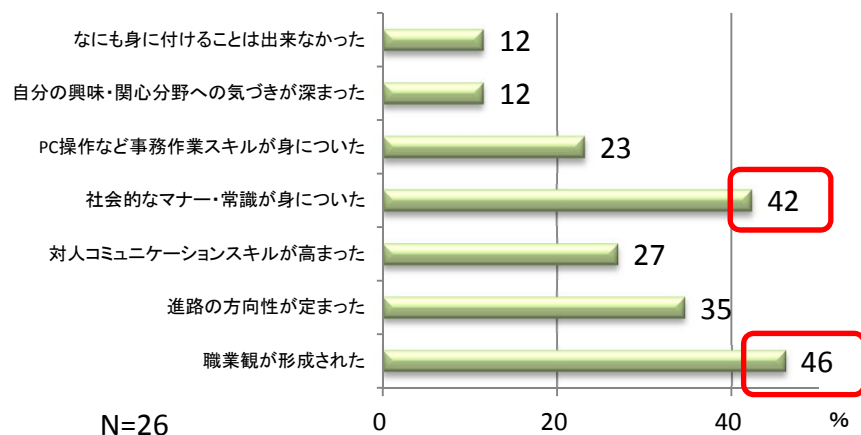
#### (3) 中間就労の経験の有無と現在の雇用状態

■ 正規雇用 ■ 非正規雇用 ■ 無業者



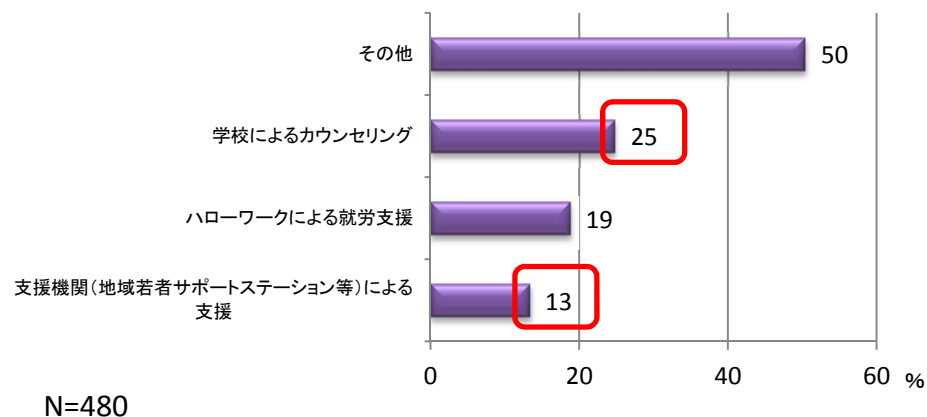
注)「わからない・答えたくない」と回答した者(N=47)は除いている。

#### (2) 中間就労の効果



注) 中間就労: NPO法人等が仲介して食堂や作業所等で働くこと等を通じた自立支援プログラムのこと。

#### (4) 就労するきっかけとなった要因と就労に結びついた支援



注) 現在ひきこもり、不登校の状態である者(N=38)は除いている。